

# 気 象 界 消 息

## 1. WMO 水理気象委員会第2会期開催

9月27日から10月20日までポーランド、ワルソーでWMO水理気象委員会第2会期が開催され、日本からは気象庁齊藤鍊一予報課長が出席する。なお同課長はその後ソ連水理気象局を視察する。

## 2. WMO第3回高層気象委員会・シノプチック気象委員会合同数値予報作業委員会開催

西独オッヘンバッハで10月1日から上記が開催され、日本からは予報部伊藤博電子計算室長が出席する。委員会は10月12日に終る。

## 3. 北海道に初霜

旭川地方気象台では9月17日、上越に霜があったと報じた。これは今年の初霜で昨年より5日早い。

## 4. 台風、日本をおそう。

今年最悪の台風が9月25日、日本を襲った。これは台風20号(Wilda)で宇和島で72m/secの強風を記録する等、大きな被害をだした。主な被災地は九州、四国だったが、本州でもかなり被害があった。

## 5. 富士山に初雪

9月17日、試験作動を開始したレーダーを取付けられた富士山に9月27日、初雪があった。これは平年に比べ21日おそく、昨年より58日おそいという。

## 6. 東京に秋冷

9月28日、東京では冷たい雨が降り、気温は15.4°Cに下り、1912年の9月の最低気温を破った。平年より8°Cも低い11月中旬の気温で人々をふるえ上らせた。

## 7. トルコの洪水。

イスタンブールから、9月28日、洪水があり詳細不明だが少なくとも12人の死者があったと報じている。

## 8. 本州に地震

10月1日午後4時14分に関東・東北・中印一帯にかけかなりの地震があった。震災は茨城県南西60kmの海底で、折から来日中のオリンピック村の住人をおどろかした。被害はなかった。

## 9. インドの洪水

10月1日、ニューデリーからの報告では、マドラスの北方240マイル付近に大洪水があり、50人以上の死者をだしたとのこと、これは3日間で450ミリにも達する大雨のため多くの河川が氾濫したためである。

## 10. 南部ルイジアナにハリケーンが襲う。

ハリケーン・ヒルダが10月3日、ルイジアナ州南部を襲い、29人の死者をだした。これはヒルダに伴った少くとも三つのトルネードによるものである。

## 11. トルコの地震。

トルコ北西部に10月6日、地震が起り、死者30名、負傷52名の被害があった。

## 12. オランダ船、嵐で沈没。

オランダのドリスという3000トンの船が、イタリアのナポリ湾で、10月4日嵐に会い、沈没した。

## 13. ジャワ島にも洪水。

ジャワの東部に、10日間も豪雨が降りつづき、10月14日に洪水のため、32人が死んだといわれる。

## 14. ハリケーン、フロリダを襲う。

ハリケーン・イスベルが10月14日にフロリダ南東部を襲った。トルネードが各地の農場・都市を荒れ狂ったが死者はなかった模様。

## 15. ボリビアに山くずれ。

ボリビアのボゴタからの報告では、ボゴタの西300マイルのサラミナ地方に山くずれがあり、16人が死んだとのことである。

# 理 事 会 だ よ り

## 第4回常任理事会議事録

日 時： 昭和39年9月8日(火) 13.00~21.30

場 所： 気象庁第3会議室

出席者： 正野、北岡、今井、大田、須田、神山、桜庭、  
岸保、吉野、荒井、各理事(順序不同)

議 題

## 1. 長期計画について

イ. 委員会の「気象学長期計画」草案については、これを各方面で検討した結果、いろいろと異論があり代案なども提出されているので気象分野の統一された計画案とするには、時期尚早と考

えられる。したがってこれらの異見や代案を参考資料として再度検討されるように長期計画委員会に依頼する。なお具体的には、大学方面や気象研究所などで検討してもらうとともに福岡の秋季大会で長期計画についての検討会（シンポジウム等）を企画する。

ロ．福岡の秋季大会には総会を開くことになっていたが、その主要議題である長期計画の学会案が、上記の理由によって成案をえられないので、総会はとりやめる。

ハ．つぎの草案は春季総会に学会案が提出できることを目標にして準備を進める。

## 2. 気象集誌、天気編集費について

気象集誌、天気の編集が現行の編集費では困難なため、天気については各号2,000円集誌については各号3,000円の増加を認める。（天気、集誌ともに各号の編集費は10,000円となる。）この資金については、経常的な収入源がえられるような方法を講ずる。

ただし天気編集費の値上げ中原稿料については、研究ノート中原稿料とも関連するので今回は見送る。

## 3. 月例会のあり方について

報告7のイのアンケートがまとまってから議題とする。

## 4. 学会賞、藤原賞の選考委員について

下記5名の会員に昭和年度の学会賞、藤原賞の選考委員を依頼する。

北岡竜海（委員長）、井上栄一（幹事）、高橋浩一郎、孫野長治、荒川昭夫。

## 5. 関西支部よりの要望書について

要望事項の(2)について具体的な意味が不明であるので、庶務よりこれを支部に聞きあわせてから議題とする。

## 6. 国際雲物理会議の募金趣意書について

募金の趣旨は了承し、文案については組織委員会に一任する。

## 7. その他

イ．春季大会は国際雲物理会議の開催予定日（5月24日～6月1日）を考慮して、その前に開催するようにする。

ロ．定款の改正について11月に福岡で開催予定の全国理事会に趣旨の説明を行う。

# 昭和40年度日本気象学会賞、藤原賞候補者推薦について

日本気象学会賞、藤原賞候補推薦委員会

昭和40年度学会賞の推薦につき一部の会員の方には下記の依頼文をお届けしましたが、それ以外の方でも適当な候補者について御意見があれば奮って御推薦下さい。

なお、推薦用紙は学会事務局にありますから御請求下さい。

（前略）

私ども（下記）はこのたび昭和40年度日本気象学会賞および藤原賞候補推薦委員を命ぜられました。つきましては両賞の審査の資料として各関係分野での、それぞれの適当候補者（共同研究を含む）1名を御推薦いただければ有難く存じます。日本気象学会賞は「原則として前5ヶ年間の気象集誌に発表された論文を審査してその中から気象学に関し、重要な研究をなした者」を、また藤原賞は「気象学の応用に関する調査、研究、総会報

告、著述等により、日本の気象学および気象技術の向上に寄与した者」をそれぞれ候補者として推薦委員会が選り、理事長はこれを「理事会にかけ、全理事の無記名投票により」で選定されるものであります。御推薦は候補者推薦用紙に御記入の上、勝手ながら、昭和39年12月15日までに下記推薦委員会宛御送り頂ければ幸に存じます。

送附先 東京都千代田区大手町 気象庁 気付

日本気象学会賞、藤原賞候補者推薦委員会  
昭和40年度学会賞、藤原賞推薦委員会構成

（委員長） 北 岡 龍 海

孫 野 長 治

高 橋 浩 一 郎

荒 川 昭 夫

（幹 事） 井 上 栄 一